

実施日：1月16日（金）	
教科等：特別の教科 道徳	
取組名：1・17集会 東日本大震災から学ぶ	
対 象：全学年	実施場所：各教室
ア ねらい 相手の立場や気持ちに配慮し、差別や偏見のない社会の実現に向けて、自分の行動や言葉に責任を持ち、日常生活で実践する心を育む。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 導 入 東日本大震災の知っていることについて意見交換する。 ・ 平岡南中学校で毎年開いている1.17の集いや、東日本大震災がどのような災害であったかにふれる。 ・ 「風評被害」とは何か、知っていることを発表する。 ・ 本時で取り扱う教材は、「全国中学生人権作文コンテスト」の入賞作品であることを知る。 展開① 動画「温かさを分け合って」を視聴する。 人権作文をもとに作成された動画であることを知る。視聴後、ワークシートに感じたことを記入する。 展開② 動画に出てきた「偏見」や「差別」について発表し、登場人物である満男の心情に迫る。 ・ 放射能がうつると思われた。 ・ 自分が汚染されたくない。 ・ 放射能は目に見えないので、不安や恐怖心から差別が生まれた。 など 展開③ 「震災と人権」を考えるうえで、大切なこと、風評による「偏見」や「差別」をなくすためにできることを考え、発表する。 まとめ これからの自分にできることや学習の感想をまとめる。	
ウ 連携先：家庭 NPO 法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り	
エ 連携にむけての取組 生徒会が「希望の灯り」の分灯式に参加し、1.17の集いで報告をした。身近に起こった震災について深く考えるきっかけとなり、その事後の学習意欲も高まりがみられた。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 担当者（各学年1名）で集まり、教材研究を行う。その後、学年内で担当者を中心に研修を行い、学習のめあてや留意点を授業者間で共通理解している。	
カ 評価の方法 ・ ワークシート ・ グループワーク時の見取り	
キ 成果 実際に大震災を体験した中学生が書いた作文ということもあり、登場人物である満男の心情に寄り添って考えることで、風評から生まれる「差別」や「偏見」について自身の考えを深めることができた。	
ク 課題 今回は大震災で生まれた風評被害による「差別」や「偏見」について学習を深めたが、震災時でなくても生活の身近な問題として起こりうることであることをおさえる必要があると感じた。大変なときだからこそ支え合うのではなく、日々の生活の中から支え合えるような人間関係の築き方を意識させる必要がある。	